

完全保存版

JWCAD BASIC GUIDE

JWCADで、もっと効率化に！

JWCAD初心者の方必見！

はじめてのJWCAD

【 基本操作編 】

INDEX

01. 初心者必見!JWCADの基本マニュアル
02. JWCADで製図に必要な基本設定をマスターしよう
03. 初心者でも簡単!JWCADを使った基本的な図面の書き方
04. JWCADの基本操作が知りたい!
キーボードやマウスの便利な使い方
05. JWCADの文字入力をマスターして作業効率をアップさせよう
06. JWCADで図面の拡大縮小をする方法
07. JWCADの画面移動は独特!スムーズに使う方法とは?
08. せっかくJWCADを利用するならレイヤー設定を使いこなそう
09. 自動保存を使うとさらに便利に!JWCADを使いこなす方法
10. JWCADの基本!複写・移動・消去を使いこなす
11. JWCADのクロックメニューとは?
操作方法と使えるコマンドを解説



初心者必見！ JWCADの基本マニュアル

CADで図面を描くといっても、基本的なものは手描きと変わりません。直接紙に描く作業がパソコンの画面上になったというだけですが。作図に必要なものや手順に変わりはないので、JWCADを始めたばかりでも同じ要領で進めていきましょう。紙で製図していたときの流れを考えれば、おのずと必要なツールや書き方が分かってきます。あとは、コマンド操作や設定を覚えるだけです。そこで、今回は、JWCAD初心者に向けた基本的な設定と機能について解説していきます。

図面を描くための基本をマスターする

図面を描くときに必要なのは、用紙サイズの設定です。用紙は、コントロールバーの「設定」をクリックして「用紙サイズ」から自由に設定できます。用紙サイズが決まったら、同じく「設定」画面から「画面倍率」に進み、「用紙全体を表示」しておきます。ここまでが図面を描く前の基本的な設定です。次に、図形の描き方をマスターしていきましょう。図面を描くときには、直線と円、または円弧で構成されていることがほとんどです。この3種類をマスターしておけば、たいがいの図形を描くことはできます。JWCADで製図するときも、まずは線と円、そして円弧の描き方からマスターしましょう。しかし、図面を描く上では位置が正確であることが求められます。そこで便利なのが補助線です。描いていく上で効率性を上げることもできるので、JWCADでは補助線がよく使われます。直線を描く場合は、補助線の交点で始点と終点を決めます。円や円弧の場合は、それぞれの中心が補助線の交点部分に合うようにすればいいのです。

では、基本的な操作を覚えるために、補助線を使って四角を描いてみましょう。実際には、四角を描くコマンドを利用すれば簡単に描くことはできます。しかし、JWCADを使い始めたばかりのときは、操作に慣れるためにも直線を使って四角を作る練習をすると、描き方の感覚が身につきます。図形を描く前に補助線を描いておきましょう。ここで注意したいのが、補助線の色を変えておくことです。補助線の色を変えておかないと、図形との区別がつかなくなってしまい、混乱の原因になります。「線属性」をクリックして線の色を選択します。図形は黒で描くので、補助線はマゼンダなど淡い色で設定しておけば見やすくなります。

次に、画面左のツールバーから「直線」コマンドをクリックし、上のコントロールバー左にある「水平・垂直」をチェックしておきます。横の補助線を描くには、画面の左端で左クリックをし、そのまま右端までドラッグしたら再び左クリックをします。これが線の描き方の基本です。次に、縦の補助線を描きましょう。画面の上部で左クリックをしたら、さきほどと同じ要領で下部までドラッグして左クリックをします。これで、2本の補助線ができました。この2本の補助線を基本にして、縦50mm、横100mmの四角を描いていきましょう。

「複線」コマンドを選択しておき、横の線をクリックすると線の色が変わります。色が変わったらコントロールバーの「複線間隔」に数値を入力しましょう。縦が50mmの四角なので、半分の25mmと入力しておきます。次に、横の基本補助線より上の位置で左クリックしましょう。これで、上に複線ができあがります。同じ要領で、今度は基本補助線の下に複線を作ります。基本補助線を選択し、「複線間隔」に数値入力をしたら、線を置きたい場所で左クリックするという順番です。このやり方で、横の線を全部で3本にします。同じ方法を使って、縦にも基本補助線を中心に線を増やしていきます。横の場合の「複線間隔」は、100mmの半分なので50mmで設定しておきましょう。

ここまでの作業で、直線で四角を作る準備ができました。ここで「線属性」から線の色を黒に変更します。次に、ツールバーから「直線」を選択し、先ほど描いておいた補助線でできた100mm×50mmの四角形を、左上から横線、縦線、横線、縦線となぞるように描いていけば完成です。線の始点と終点で右クリックするようにしましょう。補助線は下描きで、その上に黒い線で四角を描くという感覚です。

縮尺を設定する

図面に欠かせないのは縮尺の設定です。縮尺がいくつで描かれているか分からないと、他の人が見たときに意味をなしません。縮尺の設定は、画面下にある「縮尺」をクリックして行います。縮尺のボックスに直接数値を入力し、OKボタンをクリックしましょう。縮尺は、図形が画面に入りきらないときや、部分的に拡大して詳細図を加えたいときにも必要です。JWCADで縮尺を設定するときには、「実寸固定」か「図寸固定」かがポイントになります。「実寸固定」にしておく方が一般的です。「図寸固定」をしておくと、拡大や縮小をかけたときに寸法値まで変わってしまいます。「原寸固定」と「図寸固定」は、「縮尺」で設定できます。縮尺の数値を入力するときには、忘れずに確認しておきましょう。

基本的で便利な機能(レイヤー編)

レイヤーは、図形をグループごとで操作するのに便利な機能です。たとえば、縮尺を変えたいときなど、グループ別にすることで同時に変更をするといった使い方ができます。最初の設定からきちんとレイヤーを分けておけばいいですが、作業の途中で別のレイヤーに移動したくなることも出てくるかもしれません。移動が必要になったときに便利な方法として、まず、移動したい図形を選択しましょう。次に、コントロールバーの「属性変更」から「レイヤー変更」を選択します。図形を移動させたいレイヤーの番号を選択してOKをクリックしたら完了です。この操作で、図形の位置を変えないままレイヤーだけを変更できます。

基本的で便利な機能(文字編)

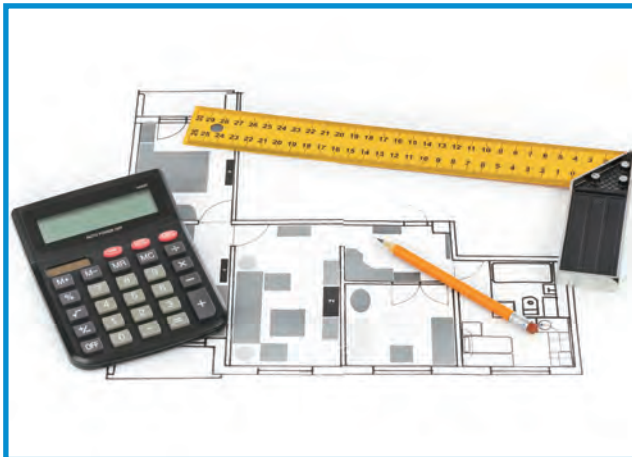
入力した複数の文字を、一気に左揃えにすることが可能です。文字を揃えるには「範囲」コマンドから実行できます。揃えたい文字列を全部囲って選択をしましょう。次に、「文字位置・集計」をクリックすると、その左のボックスに数値入力ができるようになります。このときの数値は、文字間隔と1行の文字数で入れます。左揃えにするだけの場合は、文字間隔の数字を0にし、1行が6文字の場合なら文字数は6です。間にカンマを入れるので「0,6」で入力しましょう。そして、文字を配置したい場所にマウスを移動させ、クリックすれば揃った状態で配置されます。

文字を四角で囲む方法も、覚えておくと便利です。いろいろなやり方がありますが、「文字」コマンドからできる方法が簡単でしょう。「文字」コマンドを選択したら、コントロールバーの「起点」をクリックし、ウィンドウの下にある「下線作図」「上線作図」そして「左右作図」のすべてにチェックを入れてOKをクリックします。この状態で文字を入力すると、これだけで四角に囲まれた文字を作ることができるのです。

JWCADと一緒に便利なアプリを手に入れる

JWCADは、使いこなせるようになると便利な機能がたくさんあります。慣れることが一番なので、まずは作図の基本からていねいにマスターしていきましょう。使えるかどうかが不安で、まだ導入していないという場合は、どんどん使った方が覚えられます。基本的なことができるようになったら、新しい機能に挑戦したり応用したりを繰り返していくといいでしょう。これからJWCADを使いたいと考えているなら、「Jw_cad」の公式サイトからダウンロードできます。無料のCADソフトなので、気負わずに始めてみましょう。

実際に業務で使うようになったら、「PrimoPDF」を入手しておくを重宝します。取引先や関連企業とデータのやり取りをするときに、PDF形式で送ると互換性があり、相手がJWCADを入れていなくても閲覧が可能です。まずはJWCADの基本をマスターし、便利なアプリケーションを活用しながら、どんどん使いこなしていきましょう。



JWCADで製図に 必要な基本設定を マスターしよう

JWCADで製図を行うには、さまざまな基本設定をしておく必要があります。特に、初めてJWCADを使う場合には、基本設定を
するところからはじめましょう。水道配管などの図面でも基本設定は必要です。今まで手書きで製図をしてきた人にはやや面
倒かもしれません。しかし、基本的な機能を覚えるうえで、基本設定を押さえておくことは大切なことです。初めに設定がで
きていと楽な面もあります。ここでは、図面でよく使う基本設定のやり方について解説します。

初めにやっておきたい基本設定

JWCADをインストールしたら、まず画面配置を覚えておきましょう。画面の一番上にあるのが「メニューバー」で、メニューバー
をクリックすると、すぐ下に表示されるのが「コントロールバー」です。画面の左側と右側には「ツールバー」があります。右側の
ツールバーの下に表示されているのは「レイヤー」です。そして、画面の下にあるのは「ステータスバー」といいます。

画面の配置を覚えたら、次に基本設定をしておきましょう。基本設定を行うには、メニューバーの「設定(S)」、続いてコントロー
ルバーの「基本設定(S)」と左クリックで選択します。JWCADは、初期設定のままでは使えないということではありません。ただ
し、使用環境や実際に作図する画面によっては、初期設定では合わない部分が出てきます。なかでも、矢印キーやマウスホイ
ールが使えない状態になっているので、初めに設定を変えておくといいでしょう。「一般(2)」を選択し、ダイアログにある「矢印
キーで画面移動、PageUp・PageDownで画面拡大・縮小、Homeで全体表示にする」のボックスにチェックを入れます。必要に
応じて他の項目にもチェックを入れ、最後にOKを左クリックしたら完了です。操作に関する設定は、好みに応じて変更をして
おくといいでしょう。

基本設定その1「文字の設定」

文字は、製図を書く際に欠かせないものです。文字が適切に入力できていないと、図面は完成できません。文字の設定を行う
には、まず画面上部のメニューバーから「設定(S)」を選びます。ウィンドウが開いたら一番上にある「基本設定(S)」を左クリ
ックしましょう。すると、上部に一般(1)、一般(2)、色・画面、線種、文字などが並んでいるダイアログが開きます。文字設定は、そ
の中の「文字」から行えばいいのです。

「文字」を左クリックすると、左側に文字種1から文字種10までが縦に並んだダイアログが開きます。文字種の右側には、横、縦、
間隔、色No.といった設定が横並びになっているのが確認可能です。この部分が、JWCADの文字設定の基本です。横は文字を
横長に、縦は文字を縦長にしたいときに使います。間隔は文字と文字の間をどれくらい空けるか調節するために設定。間隔は、
文字数や文字を挿入する場所によって間隔を自由に変更できるので便利です。そして、色No.では文字色を変えることができ
ます。それぞれに設定したい場所に数値を入力したら、最後にOKを左クリックして完了です。

実際にどれくらいの文字や間隔で入力できるかは、数値を変えて試してみるのもいいかもしれません。自分の好みのイメージ
に入力できる設定を探してみましょう。

基本設定その2「線種の設定」

作図には、線の設定も欠かせません。線種や設定の変更は、伝わりやすい図面を書くうえで重要なことです。線の設定は、文字同様、基本設定画面から行います。まず、メニューバーの「設定(S)」を左クリックしたら、「基本設定(S)」の「線種」を選択します。「線種」の場所は、「文字」の左側です。「線種」を左クリックすると、線種1から線種8、補助線が縦に並んでいます。その隣には線種パターン、画面表示、プリンタ出力の順に並び、ここで設定が可能です。

線の種類には、実線の他に破線、一点鎖線、二点鎖線、ランダム線に補助線があります。線種パターンで設定ができるのは、実践以外の線です。実践は途切れがなくなっているため、ピッチやパターン設定は不要になります。ただし、破線や鎖線においても、初期設定のままでも特に問題はありませぬ。自分で使いたい線がある場合には、自由に設定を変えて見ましょう。最後にOKボタンを左クリックすれば、設定完了です。設定はできても、自分のイメージ通りになるとは限りませぬ。好みと違っている場合には何度か設定を変更してみましょう。

基本設定その3「線幅と色の設定」

線幅も設定画面は同じです。「設定(S)」、「基本設定(S)」と順に選択していきます。ここまで進んだら、ダイアログの中の「色・画面」を選択しましょう。左側に線色1から線色8、グレー、補助線色、選択色、仮表示色と縦に並んでいます。その右側には、赤、緑、青と横に並び、その隣にあるのが線幅です。線の太さの変更は線幅で行います。ここで注意したいのが、線幅は2種類あることです。左側が画面の要素、右側がプリンタ出力の要素になっているので、それぞれで設定しておきましょう。

画面要素では、1~16まで自由に設定ができます。最も細いのが1で、以降、16まで順に太くなっていきます。画面要素の場合は1で設定するのが一般的ですが、作業しやすいよう、自分の好みでかまいません。いろいろ変えながら自由に設定してみましょう。注意したいのはプリンタ出力要素です。実際にプリントした際、見やすい幅になるように設定します。何度かテストプリントをして、確認しながら数値を決めるといいでしょう。最後にOKボタンを左クリックすれば設定を保存可能です。また、カラープリントをする場合は、この画面から印刷時の色を設定します。カラープリントをしない場合は、モノクロ印刷を選択しておきましょう。そうしておけば、プリントしたときに設定した色は反映されませぬ。

基本設定が保存されない場合の対処法

せっかく基本設定をしておいても、JWCADまたはパソコンを再起動すると変更前に戻っている場合があります。そんな場合の対処法を覚えておくと便利です。JWCADの基本設定をすると、通常はWindowsのレジストリに保存されるようになっています。しかし、JWWフォルダの中に「Jw_win.jwf」ファイルが存在している場合は、JWCADを起動するたびに、この環境設定ファイルを読み込んでしまうのです。

そのため、保存したはずの基本設定が反映されないという現象が起こります。これを解決するには、「Jw_win.jwf」を削除する方法があります。削除してしまうのが不安な場合は、名前を変更しておきましょう。これで、次にJWCADを起動しても、設定が戻っていることを回避できます。

CAD選びを見直すのも1つの方法

せっかく基本設定をしておいても、JWCADまたはパソコンを再起動すると変更前に戻っている場合があります。そんな場合の対処法を覚えておくと便利です。JWCADの基本設定をすると、通常はWindowsのレジストリに保存されるようになっています。しかし、JWWフォルダの中に「Jw_win.jwf」ファイルが存在している場合は、JWCADを起動するたびに、この環境設定ファイルを読み込んでしまうのです。

そのため、保存したはずの基本設定が反映されないという現象が起こります。これを解決するには、「Jw_win.jwf」を削除する

方法があります。削除してしまうのが不安な場合は、名前を変更しておきましょう。これで、次にJWCADを起動しても、設定が戻っていることを回避できます。



初心者でも簡単！ JWCADを使った 基本的な図面の書き方

JWCADは無料で使用できるフリーソフトでありながら、多彩な機能が備わっているという優れたものです。操作性も軽快で、パソコン上で図面を書く際には多くの方がこれを利用していています。しかし、初心者の中には機能が多すぎて使い方がよくわからないという人もいるかもしれません。また、フリーソフトであるために、操作方法のサポートが十分でないという問題もあります。そこで、JWCADの使い方をこれから覚えていこうという人の参考になるように、基本的な図面の書き方について解説をしていきます。

最初に図面枠を作成しよう！

JWCADで図面を書く場合には最初に図面枠を設定します。これがなくても作図自体は可能なのですが、設定をしておくことでいろいろな機能が使えるようになり、作業の効率がアップするので。

設定の方法としてはまず、右ツールバーの「印刷」タブをクリックします。すると「プリンター設定画面」が出てくるので「OK」をクリックすると画面に印刷範囲を示す枠が表示されるはずですが。ただ、そのままだと縦方向の印刷範囲となり、画面が見づらくなってしまいます。そこで、画面の上側にある『回転』タブをクリックして『90° 回転』にします。あとは画面右の「枠書込」タブをクリックすれば、図面枠の完成です。

この図面枠は印刷範囲と同じ範囲を示しているのので、作図したものはすべて1枚の印刷物として出力されることになります。ちなみに、右ツールバーの「線属性」タブをクリックすれば、枠線の種類を選ぶこともできます。

基本的な線の描き方

図面枠ができれば、その中で線を描きながら図面を作成していきます。

まず、直線を描くときは左ツールバーの「／」タグをクリックします。次に、直線を描き始める始点でマウスを左クリックし、マウスポインターを終点に移動して再び左クリックすれば直線の完成です。また、円を描く場合は左ツールバーの「中心線」タグをクリックし、図面枠の上下左右の辺の上でそれぞれクリックします。すると、縦と横の補助線とそれらが交差した中心点ができます。

そして、今度は左ツールバーの「○」を左クリックし、中心点付近で右クリックをすれば円を描くことができるようになるわけです。その状態でマウスポインターをスライドさせることで円の大きさを調整できますし、左クリックをすれば決定となります。

さらに、曲線を描く際にはツールバーの「作図」内にある「曲線」タブをクリックしてコントロールパネルを表示させます。コントロールパネルには「サイン曲線」「2次曲線」「スプライン曲線」「ベジェ曲線」という4つのタグがあり、それらを選ぶことでさまざまなタイプの曲線を描くことが可能となります。最初にどのような曲線を描きたいかをしっかりイメージし、それに適したタグを選択するようにしましょう。

不要な線を消去する方法

図面を書く際にはどうしても不要な線が出てくるものです。

そこで、マスターする必要があるのが線の消去法ですが、まず、直線を消去する場合は左ツールバーの「消去」をクリックし、消したい線の上でマウスポインターを右クリックします。

ただ、この方法では直線をすべて消してしまうので、直線の一部分だけ消したいという場合には使用できません。

一部だけを消したい場合は、「消去」をクリックしたあとに線の上で左クリックします。

すると、線全体が選択されるので、消したい範囲の先端を右クリックして読み取りを行い、反対側の先端で左クリックをすると、その間の線を消去することができます。

次に、円の消去方法ですが、これは「消去」をクリックして円周線上でマウスポインターを右クリックするだけです。

それでは円を部分的に消去するにはどうすればよいかというと、消去する円を左クリックで指定して、直線の場合と同じように、消したい部分の始点を右クリックし、終点を左クリックします。

ただし、始点から終点は反時計まわりに設定するようにしましょう。もし時計回りで設定すると、想定していた部分の反対側の線が消えることとなります。

拡大と縮小を行う2つの方法

図面を作成していると、線が重なるなどして見えにくくなる場合があります。

そういうときは拡大表示の機能が利用できると便利です。画面を拡大するにはまず、設定画面を開けて、「一般(2)」のタグをクリックします。

すると、右下に「マウスホイール」という表示があるので、その「+」もしくは「-」のどちらかにチェックを入れます。

そのうえで、図面枠内にマウスポインターを置いた状態でマウスホイールを回転させれば、マウスポインターを中心に拡大及び縮小をしていくわけです。

なお、縮小か拡大かはマウスホイールを回転させる方向によって変わっていきます。

また、設定画面の「一般(1)」の「マウスの左または右ボタンを押して1秒以上待つとズーム操作(L:移動)(R:縮小・拡大)」のところにチェックを入れると、表示されている通りに操作することができるようになります。

うっかり忘れないように! 図面の保存の仕方

図面を書いたあとに忘れてはならないのが保存です。

なぜなら、これをせずに作業を終了してしまうと、次の作業を最初からやり直さなくてはならなくなってしまいますからです。

保存の手順はまず、画面の左上に表示してある「ファイル」をクリックし、「名前を付けて保存」を再度クリックします。

次に、保存するドライブを選択し、画面上の「新規」をクリックします。

さらに、「フォルダ」にチェックを入れ、ファイル名を記入してから「OK」をクリックすれば保存は完了です。

ちなみに、保存したファイルを呼び出す場合は、右ツールバーの「開く」をクリックし、表示されたファイルリストから該当するものをダブルクリックするだけです。

図面の書き方の基本を理解したうえでJWCADの上達を目指そう！

ここで説明をしたのは図面の書き方の中でもごく基本的な部分です。

しかし、少なくとも、それらの内容を理解することでJWCADとはどのようなものかを知ることができ、本格的な図面を書くための足掛かりとすることができます。

それに、基礎をしっかりと身につけておかなければ、その先に進むのは困難です。

JWCADについてよく知らないという人は、この記事などを参考にしながら、練習を積み重ねていきましょう。

最初は難しいと思うかもしれませんが、基本的な部分がわかってくると上達も早くなるはずです。



JWCADの 基本操作が知りたい！ キーボードやマウスの 便利な使い方

JWCADは、二次元CADのフリーソフトウェアです。

建築に特化した機能が無料で使用できる便利なソフトになります。

「図面の手書きから脱却してスキルアップしたい」「現在使っているCADソフトが使いにくい」などの理由で、JWCADに興味はあるものの操作に不安を感じている人がいるかもしれません。

JWCADにはどんな特徴があり、どうすれば上手に使えるでしょうか。

ここでは、JWCADを使用する際のマウスやキーボードの使い方など、基本的な操作方法を初心者にもわかりやすく解説します。

JWCADの基本操作を覚えよう

JWCADをインストールしたら、まずソフトの起動とファイルの新規作成、保存の仕方を覚えましょう。

スタートメニューから「Jw_cad」をクリックし、起動します。

起動した画面は、新規ファイルを開いている状態です。新たにファイルを作るなら、メニューバーの「ファイル」で「新規作成」を選びます。

CADソフトでは、用紙サイズと縮尺の設定が重要です。

途中で変更して図面がおかしくなってしまうことを避けるためにも、最初に設定しておくといでしょう。

ステータスバーの右側で確認できます。

保存する場合は、メニューバー「ファイル」の「名前を付けて保存」で、ファイル選択画面を表示しましょう。

左側で保存先を指定し、上部にある「新規」を選択します。新規作成画面を表示させ、名前欄にファイル名を入力してください。

新規の「ファイル」を選択、保存形式を選択し、「OK」をクリックします。

メニューバー「ファイル」の「Jw_cadの終了」もしくは、画面右上の「×」をクリックして終了しましょう。

JWCADの操作画面を知ろう

画面左上にある「ファイル」「編集」「表示」などの項目がある部分は「メニューバー」と呼びます。

さまざまな機能(コマンド)が、メニューバーから選択可能です。

項目をクリックするか、Altキーを押してから項目のカッコ内にあるキーを押すと、その項目に関連するメニューが表示されます。

操作内容をクリックするか、カッコ内のキーを押してコマンドを選択、もしくは実行してください。

背景や線の色、種類などは、メニューバーの「設定」を選択し、その後「基本設定」で変更できます。基本設定では、クロスラインカーソルの設定もできることを覚えておくといでしょう。

通常メニューバーの下に表示されるのは、「コントロールバー」です。

選択されている機能によって表示内容が異なり、機能の細かい設定ができます。

コントロールバーは、使いやすい位置に動かすことも可能です。項目以外の部分を左ドラッグして移動してください。

ウィンドウの4辺に沿うように配置させたり、独立したウィンドウとして配置させたりすることができます。

画面の下部に表示されるのは、「ステータスバー」です。

右側には、用紙サイズや尺度、表示倍率など、現在の状態が表示されています。

左側に表示されるのは、メッセージです。次に行う操作がわかります。

初心者はこの指示を見ながら操作方法を覚えるとよいでしょう。

(L)は左クリックで、(R)は右クリックをします。(LL)は左ダブルクリックで、(RR)は右ダブルクリックです。

「free」はどの位置でも指定でき、「Read」は端点や交点などを捉える場合に使用します。

例えば、「始点を指示してください(L) free (R) Read」と表示されており、何も線がない場所に自由に線を引くなら、左クリックで始点を指示してください。

すでに引いてある線を読みとって端点から別の線を引く場合には、右クリックで始点を指示します。

「ツールバー」は画面左右の縦長で、点や接線、寸法などの項目がある部分です。

よく使うコマンドをツールバーに表示させることで、メニューを開かなくても簡単に選択できます。

ツールバーは、メニューバーの「表示」を選択し、その後「ツールバー」の項目で表示・非表示を設定してください。

「ユーザーバー」では、自分がよく使用するコマンドを選択しましょう。

使用頻度の少ないコマンドは非表示にすることで、コマンドを探す手間を省けます。

JWCADのマウス操作

一般的なソフトと同様、ツールバーの項目やメニューを選択するときには左クリックですが、JWCAD作図画面上でのマウス操作は、他のソフトと少し異なります。

左右クリックの使い分けが大切です。

コマンドごとに左クリックと右クリックで異なる機能があるため、慣れるまではステータスバーのメッセージを参考にするとよいでしょう。

通常、任意点指示に使用するのは左クリックです。マウスカーソルがある位置が選択されます。

端点や交点を指定したつもりでも、左クリックでは必ずズレが生じるため注意しましょう。

端点や交点などの読取点指示には右クリックを使用してください。近くに読取点がなければ、「点がありません」とエラー表示されます。

左ダブルクリックや右ダブルクリックを使用するのは、基準線を変更する場合などです。

両ボタンクリックをすると、画面中央へ移動します。

JWCADでは、始点・終点はクリックで指定して描画するため、範囲を指定したり線を引いたりする際にドラッグする必要はありません。

しかし、両ボタンドラッグは拡大縮小などに使用できる便利な機能です。

右上へドラッグすると、画面全体表示もしくは記憶範囲の表示が実行されます。

図形全体ではなく、設定されている用紙サイズ全体の表示です。

左上へのドラッグは2分の1縮小表示に使います。

左下へドラッグすると現在の倍率の1つ前に選択された倍率に戻され、右下へのドラッグは指定範囲の拡大表示です。

メニューバーの「設定」、「基本設定」で、上下左右への機能を割り当てることもできます。

左ドラッグと右ドラッグでは、それぞれに異なるクロックメニューを表示させることが可能です。

マウスホイールは、拡大縮小に使用します。メニューバーの「設定」「基本設定」で、拡大と縮小の指示を逆にすることも可能です。

Shiftキーを押しながらマウスホイールを動かすと、より細かい拡大・縮小率を使用できます。

JWCADのキーボード操作

JWCADを早く操作したいなら、ショートカットキーを覚えるとよいでしょう。

例えば、初期設定のままキーボードを使用する場合は下記のようなショートカットキーも役に立ちます。

- 線属性:F2
- 円:E
- 中心線:I
- 文字:A
- 範囲指定:Y
- 消去:D
- 移動:M
- 上書き保存:Ctrl+S
- 戻る:Ctrl+Z
- 進む:Ctrl+Y

自分が良く使うような操作は、覚えておくと便利でしょう。

ショートカットキーは自分でカスタマイズすることも可能です。

アルファベットキーやF2～F9、スペースキーは、メニューバーの「設定」から「基本設定」を選び「KEY」で、自由に機能を割り当てられます。

よく使うコマンドを、使いやすいキーに設定するとよいでしょう。

各キーの横に2つの数字がありますが、左側の数字はキーをそのまま押して実行、右側の数字はShiftキー+キーを押して実行します。

矢印キーで画面移動をしたり、PageUpやPageDownで画面の拡大・縮小をしたりするように設定することも可能です。

Homeで全体表示にする設定もできます。

JWCADクロックメニューの操作方法

左ドラッグや右ドラッグで使用できる、アナログ時計の形をしたメニューです。

メニューを表示したまま時計の針を回転させるようにカーソルをドラッグしてコマンドを切り替え、マウスボタンをはなしてコマンドを選択します。

クロックメニューのコマンドは、自分でカスタマイズすることが可能です。

メニューバーの「設定」「基本設定」で設定してください。

基本設定の「一般(1)」で「クロックメニューを使用しない」欄にチェックを入れれば、クロックメニューが開かない設定にもできます。

クロックメニューは使わなくてもよい機能ですが、使いこなせれば、わざわざメニューバーやツールバーにカーソルを移動させる必要がないため、作業能率が上がるでしょう。

使いやすいCADソフトを選ぼう

CADソフトを上手に使いこなせれば、仕事の能率が上がります。

しかし、仕事をしながら自分で基礎から操作方法を学ぶのは簡単ではないでしょう。

普段パソコンを使っていないなら、基本操作を覚えるのになおさら時間がかかるかもしれません。

プラスバイブラスのCADソフトは、使用頻度の高い機能が凝縮されており、操作が簡単です。

また、困ったときには質問したり相談したりできるサポート体制が整っています。

使いやすく習得しやすいCADソフトを使ってスキルアップを図るのはいかがでしょうか。



JWCADの文字入力を マスターして 作業効率をアップさせよう

JWCADはパソコンで図面入力できる優れたフリーソフトで、日本では多くの人に使われています。

文字や数字も入力できるので、寸法や注意事項を記入するときに便利です。

しかし、フリーソフトであるがゆえに操作方法のアドバイスをもらえなくて満足に入力できない事業者の人もいるのではないのでしょうか。

そこで、この記事ではJWCADの文字入力の方法や作業効率をアップさせる方法などについて紹介します。

まずは文字入力の設定から

実際に作図画面で文字入力する前に、まずは「文字入力の設定画面」を確認しましょう。

文字入力の設定画面を確認することで、文字の大きさや数字を調整できるようになります。

文字の角度や向きを変更する一部の機能については、コントロールバーから行いますが、文字入力に関するほとんどの設定ができるので覚えておくと便利です。

文字入力の設定画面は、メニューバーにある「設定」から「基本設定」を選択し、そのなかにある「文字」タブを左クリックすれば表示されます。

表示してみると文字種ごとに文字の大きさや間隔、色が指定されているのがわかるでしょう。

文字の大きさを変更したいときは、横や縦の項目の数字を変えれば指定した大きさになります。

また、間隔の項目にある数字を変更することで、文字の間隔を広くしたり狭くしたりすることが可能です。

「色No.」については、あらかじめJWCADに指定された数字に対応する文字色になるように設定されています。

たとえば、色No.1の文字色は水色で、色No.2の場合は黒になるといった具合です。

文字色については最初のうちは対応した数字を覚えるのに苦労するかもしれませんが、実は線属性で指定する線色番号と同じ数字が適用されます。

色No.に対応する色を覚えておくと図面で線を引くときにも役に立ちます。

文字の入力をしてみよう

JWCADで文字入力をするのは、慣れてしまえばとても簡単です。

まずはツールバーにある「文字」タブを左クリックしましょう。すると文字入力をするための画面が表示されるはずです。

基本的にはフォントに気を付けながら、文字入力部分の余白に文字を入力して任意の場所にカーソルを移動して左クリックをすれば文字が書けてしまいます。

しかし、文字の大きさや文字の色を変えたいときに、いちいちメニューバーの設定から選択していたのでは非効率です。

そこで、覚えておくといのが作図画面左上に表示されている、「[1]W=5 H=5 D=0.5(2)」などと表示されているボタンです。実はこのボタンは「書き込み文字種変更画面」を表示させるためのもので、左クリックするだけで文字種を選べる画面が表示されるようになっています。

なお、作図画面上部の「[1]W=5 H=5 D=0.5(2)」などと表示されているボタンは、左から「選択している文字種、幅、高さ、間隔、色No.」を表しています。

文字の大きさや幅については、とりあえず表示されてみないとどれぐらいかわからないので、実際に試して感覚をつかんでいきましょう。

また、書き込み文字種変更画面の上部には、書式を太字や斜体に変更できるチェックボックスがありますので、用途に応じて使い分けてみましょう。

文字色をいっぺんに変更する方法とは

文字入力の際に色No.を指定すれば文字色を変えられます。しかし、その方法ではすでに一度入力している文字の色を変えるのは大変です。

そこで、図面に記入されている文字の色を一度に変更する方法を知っておくと作業効率はアップするでしょう。

文字色を一度に変更するためには、まずツールバーにある「範囲」タブを左クリックします。

すると、範囲指定できるようになるので、始点を左クリック、終点を右クリックで対象となる文字を囲みましょう。

その状態でコントロールバーにある「属性変更」タブを左クリックし、表示される画面のなかから「文字色変更」を選びます。

線属性画面が表示されたら、変更したい文字色の線色を選択して「OK」ボタンをクリックします。

最後に文字色変更チェックを入れた画面下部にある「OK」ボタンをクリックすれば、範囲指定した文字が選択した文字色に変わっているはずです。

文字色を変更するときのコツとしては、範囲選択をうまく活用することが挙げられます。

範囲選択は任意のエリアを指定できるので、一部の文字色だけを変更したいというときにも応用が可能です。

たとえば、寸法や間取りといった基本項目は黒色のままにしておいて、注意書きのような言葉を目立たせたいときに特定の文字だけ赤色にするといった使い方もできます。

文字位置を一度に調整したいときはどうすればいい？

図面を外部の人に見せるときは、それなりに書式を整えておく必要があります。

文字位置がバラバラだと、どこを見ていいかわからず、とても読みにくい図面になってしまうでしょう。

とはいえ、複雑な図面であればあるほど、手動で1つずつ文字位置を整えていくのは大変です。

JWCADには複数の文字位置を一度に変更できる機能があるので、知っておくとよいでしょう。

文字位置を揃えるときにも、文字色の変更と同じように「範囲」タブで、対象となる文字を範囲指定することから始まります。

次にコントロールバーにある「文字位置・集計」タブをクリックすると、「基点(左下)」などと書かれているボタンが表示されます。

そのボタンを左クリックすると「文字基点設定」の画面が表示されるので、文字位置の修正が反映される状態を確認しましょう。

文字基点はデフォルトの状態では左下が設定されているはずです。

ユーザーの好みによって「左上」や「右上」などに変更できるので、使いやすい基点位置に変更してみると良いでしょう。

なお、基点ボタンの右隣にあるプルダウンメニューに表示されている数字は、行間隔と1行の文字数を表しています。

たとえば、「10,0」が表示されている場合は、「行間隔10mmで1行あたりの文字数制限はなし」に設定されているということです。

プルダウンメニューから任意の値を選択したら、選択範囲内で修正したい位置にカーソルを持っていき、左クリックすれば文字位置が修正されます。

文字の移動やコピーについて

図面によっては同じ文字を何度も入力することもあるでしょう。

そのようなときに入力した文字を移動したり、コピー&ペーストできたりすると便利です。

文字の移動については非常に簡単で、まずはツールバーの「文字」タブをクリックします。

すると、文字枠を選択できるカーソルが表示されるので、移動させたい文字の上で左クリックしましょう。

選択した段階で、対象となる文字列がまるごと移動できるようになっているはずですが。

後はそのまま任意の場所までカーソルを持っていき、左クリックで確定するだけです。

次に文字をコピー&ペーストする方法は、まず移動と同じようにツールバーの「文字」タブを左クリックして、対象となる文字列を指定します。

次に対象文字を指定したままの状態、ツールバーにある「複写」タブを左クリックすれば準備完了です。

後は貼り付けたい場所に左クリックをすれば、何度でもコピーできるようになっています。

コピー&ペーストや移動は比較的簡単な操作方法で、作業時間の短縮に貢献する機能です。

しっかり使いこなせるようにチャレンジしてみましょう。

ただし、あまりにも移動やコピー&ペーストを繰り返すと、かえって見づらい図面になることがあります。

見せる人の立場に立ったレイアウトを心がけるようにしましょう

JWCADの文字入力はそんなに難しくない！ それでもわからない場合はサポートが充実しているCADソフトを検討しよう

文字入力はCADソフトにおいて図形を描くのと同じくらい基本的な操作で、操作方法もそれほど難しくありません。

しかし、JWCADはフリーソフトなので、作業中に悩んだときに誰に聞いていいかわからない場合もあるでしょう。

せっかくパソコンで図面を描くのであれば、しっかりしたサポート体制が整っているプラスバイプラスのCADソフトを検討してみてもいかがでしょうか。



JWCADで 図面の拡大縮小を する方法

図面を扱っていると、拡大縮小をする必要が出てくる場合があります。

たとえば、大きなサイズの図面を全体で見たいとき、または部分的に確認したいときにも、必要な箇所だけ拡大すると便利です。

JWCADで拡大縮小を行うには、独特の方法を使います。

いろいろなやり方があるので、自分の使用環境に合わせて使い分けるのもいいでしょう。

JWCADでの図面の拡大と縮小のやり方、それにとまなう便利な機能について解説していきます。

図面の全体を表示させる

図面の全体を表示させるというのは、画面から外れた位置にある図形を見える位置に表示させる作業のことです。

たとえば、取引先から図面をDXFファイルで受け取ったときに、肝心の図形が視野に入らないところに行っている場合があります。

そのようなときに、見える場所に図形を表示させる方法です。表示は、マウスを使って行います。

まず、マウスの左ボタンと右ボタンを同時に押しましょう。

このとき、画面上に「移動」の文字が出ることを確認します。

次に、そのままの状態でもうすを右上に移動させます。

つまり、左右のボタンを同時に押したら、一気に右上にドラッグすればいいのです。

ドラッグが成功していれば、画面の文字が「移動」から「全体」に切り替わります。画面上に図形が出てきて全体が表示されたら、ボタンを放して大丈夫です。

DXFファイルは、AutoCADで作図された図面を、他のさまざまなアプリケーションでやり取りできることを目的にしています。

取引先や関連企業でAutoCADを使用していると、DXFファイルのデータが送られてくることが多いかもしれません。

画面表示がスムーズにいかないときに覚えておくと、簡単で便利な方法です。

マウスやキーボードで拡大縮小方法

マウスまたはキーボードを使って、画面表示の拡大と縮小を行う方法です。

マウスを使う場合は、「基本設定」画面の左上にある「一般2」を選択します。

そうすると、右下に「マウスホイール」が出てきますので、+または-のいずれかにチェックを入れてOKボタンをクリックしましよ

う。

この状態で画面に戻ったら、あとはマウスホイールを回せば、拡大や縮小が簡単にできます。

必要なときにすぐ操作できる方法なので、細かい作図などを部分的に確認したいときや、一部だけを編集したいときに便利です。

次に、キーボードを使って拡大と縮小を試みましょう。この場合も、まず「基本設定」で「一般2」を選択しておきます。

次に、その下にある「矢印キーで画面移動・・・ホームで全体表示をする」と書かれている項目にチェックを入れたらOKボタンをクリックします。

作画画面に戻ったら、あとはキーボードで操作するだけです。

pgup(ページアップ)キーを押せば拡大できますし、pgdn(ページダウン)キーを押せば縮小できます。

さらに、ホームボタンを押すと全体が表示されます。

パソコン操作は、マウスを中心に行う人とショートカットを使いこなして作業する人に分かれやすいので、自分が使いやすい操作方法を選択するといいでしょう。

「複写」を使った拡大縮小

JWCADには、拡大と縮小のコマンドが初めからありません。

JWCADでは他のコマンドを利用して拡大と縮小を行います。

拡大や縮小は、「複写」コマンドを使う方法があるので覚えておくと便利です。

はじめに「複写」コマンドをクリックしておきます。

画面の左下に「選択範囲を指示してください」という表示が出たら、拡大したい図形を選択しましょう。

図形を囲むように左上から右下へとドラッグすれば簡単に選択できます。

次に、複写の倍率を入力して設定します。このときに入力する数値を変えることで、自由に拡大や縮小ができるのです。

複写コマンドを使って拡大や縮小をする際、基準点を変えたいときには「基準点変更」をクリックして変更しておきましょう。

この手順を踏むことで、基準点に変更された状態での拡大と縮小ができます。

製図しているときには、部分的に詳細な図形が必要になることや、縮尺を変更する場合が出てくる場合があります。

そのようなときには、複写コマンドを試みましょう。

「移動」を使った拡大縮小

「移動」コマンドを使った拡大と縮小の方法を行うときは、はじめに対象の図面を選択しておきます。

選択ができてから「移動」コマンドをクリックしましょう。

その際、同じ場所でそのまま拡大縮小する場合は、「基点変更」をして右クリックします。

図形の左下を基点にしておけば、同じ場所でサイズ変更が可能です。

次に、数値入力をして倍率を変更します。

入力できたら設定しておいた基点の位置で右クリックすると、設定した倍率に拡大されて図形が表示されます。

縮小したいときには、同じ手順で行うだけです。

縮小の場合は、倍率の入力方法がやや異なります。

たとえば、2分の1に縮小したいときには、「0.5,0.5」という具合に入力しましょう。
そして、基点の場所で右クリックをします。

この手順で、2分の1に縮小された図形ができあがります。
倍率を数値入力する際の入れ方は、「x方向倍率、y方向倍率」で入力しましょう。

1枚の図面に異なる尺度の図形を描く

図面の中のどこか一部を詳細に説明したいときには、そこだけ拡大して描く必要があります。
違う図面として描く場合もありますが、同じ図面の中に入れた方が分かりやすい場合には、部分的に縮尺を変えなければなりません。

縮尺の異なる図形を1枚の図面の中に描きたいときに便利な方法があります。

縮尺を分けて図形を描くときに便利なのは、レイヤーを使う方法です。
レイヤーを活用すると、図形をグループごとに分け、それぞれで設定を変えることができます。
JWCADは画面の右下にレイヤーが出ています。
たとえば、0グループのレイヤーに1分の1の縮尺で図形を描く場合は、0レイヤーをクリックして選択しておきましょう。

次に、縮尺を変更します。
縮尺の変更をするには、画面右下に表示されている縮尺表示をクリックし「縮尺・読取・設定」から行います。
ウィンドウが出たら、縮尺のボックスに1/1となるように数字を入力したらOKをクリックしましょう。
この状態で図形を描けば、1分の1の縮尺で描けます。

次に、1グループのレイヤーを2分の1で設定します。手順は0グループのときと同じ要領です。
2分の1の縮尺にする場合は、縮尺設定のウィンドウで1/2になるように数字を入力します。
そして、図形を描けば、2分の1の縮尺になります。
ポイントは、グループごとにレイヤーを選択することです。

文字サイズの変更も忘れずに

JWCADは、さまざまなコマンドや機能を代用すれば簡単にサイズ変更が可能なので、覚えて活用しましょう。
JWCADは、独特な操作方法が多いですが、慣れれば便利な機能が充実しています。
また、注意したいのが、拡大や縮小をしたときにサイズが変更されるのは図形だけという点です。
図形についている寸法などの文字サイズは変更されません。
しかし、図形や縮尺によっては、文字サイズも合わせておかないとバランスが悪かったり見づらくなったりします。
そんな問題を回避するために、文字サイズの変更もしておきましょう。

文字サイズを変更するときには、個別の設定が必要です。
操作は「縮尺・読取・設定」から行います。
図形の縮尺を変更したときのボックスの下に「文字サイズの変更」があるので、そこにチェックを入れてOKをクリックしましょう。
これだけの操作で、図面に合わせて文字サイズも変更されたものが表示されます。
縮尺を変えたいときには、縮尺のボックスの数字を変更すればいいのです。



JWCADの 画面移動は独特！ スムーズに使う方法とは？

JWCADを使い始めたばかりの人が最初にとまどうのが、画面移動の方法ではないでしょうか。ペイントソフトやレタッチソフトによく見られるようなスクロール機能が、JWCADにはありません。画面移動がスムーズにできないと、JWCADを使うこと自体がストレスに感じてしまいます。そのため、画面移動の方法を習得しておくことは、図面作成を効率よく行うための重要なポイントとなるでしょう。ここでは、JWCADで画面移動を行うための複数の方法について解説します。

JWCADでは「画面移動＝図形の移動」

ネット上では、「JWCADで画面スクロールができない」という疑問や質問が数多く見られます。パソコンに慣れている人になじみの深いスクロール機能がJWCADにはないため、直感で画面移動することが難しいのです。ソフトウェアの利用者にとって、スクロールとは「対象物の位置はそのまま固定しながら視点をずらす」ようなイメージの機能です。しかし、JWCADの画面移動は、「視点を固定しながら図形そのものを移動させる」ようなイメージだと考えるとわかりやすいでしょう。このため、JWCADにおいては、単なる画面移動と図形の移動や拡大・縮小が密接に関係しているのです。JWCADを難しく感じる原因のひとつに、この感覚の違いがあるでしょう。とはいえ、画面を移動するときには使える機能は多様なので、そのなかから自分に合った方法を選べます。

マウスのみで画面移動してみよう

JWCADの画面移動は、大きく分けて3通りのやり方があります。マウスのみを使う方法とキーボードのみを使う方法、マウスとキーボードの両方を使う方法の3つです。

マウスのみを使う方法には、さらに左右ボタンの同時押しによる移動と、マウスホイールを回す方法、ボタンの長押しによる移動の3通りがあります。

ひとつひとつについて、くわしく見ていきましょう。

最も簡単なのは、マウスホイールを使う方法です。マウスホイールを上下に回すと、マウスの位置を起点にして、画面が縮小・拡大します。見たい部分を大きくすることができるため、直感的に使えて便利な機能です。この方法を使うには、あらかじめ設定が必要です。

メイン画面上部のメニューバーの「設定」から「基本設定」を選びましょう。右側のツールバーから「基設」を選んでも同じ画面が開きます。

一般(2)のタブを開くと、右下に「マウスホイール」というチェック項目があります。

+にチェックを入れると、マウスホイールを+方向に回したときに画面が拡大し、一方向に回したときに画面が縮小します。

-にチェックを入れると、逆の動きになります。使いやすいほうを選びましょう。

画面移動の2つ目が、マウスの左右ボタン同時押しによる移動です。

JWCAD特有の方法なので、慣れるまで困惑しがちなポイントともいえるでしょう。

同時押しが面倒なら、ホイールボタンを押すことでも同じ動作が可能です。

左右ボタンを同時押し(またはホイールボタン押し)して、マウスを移動させずにそのままボタンを離すと、その位置が画面の中心になるように移動します。

つまり、マウスの位置とは反対方向に図形が移動します。

マウスを同時押しした位置と図形が離れているほど、図形は大きく動きます。

マウスで図形を押しやる感じをイメージすればわかりやすいでしょう。

左右ボタンを同時押し(またはホイールボタン押し)したままマウスを移動させると、動かした方向によって異なる機能が働きます。

10時方向に移動させると画面の縮小、4時方向に移動させると拡大ができます。

また、1時方向に移動させると、画面全体が表示され、7時方向に移動させるとひとつ前の倍率に戻すことが可能です。

慣れれば便利ですが、直感でマウスを動かせるようになるには経験が必要となるでしょう。

「基本設定」のうち、一般(1)のタブを開くと、中央より下に「マウスの左または右ボタンを押して1秒待つとズーム操作(L:移動)(R:縮小・拡大)」という項目があります。

これにチェックを入れておけば、ボタンの長押しによる画面移動と縮小・拡大が可能です。

左(L)ボタンを長押しすると図形が移動します。

また、右(R)ボタンの場合は、長押しをするだけで縮小・拡大が機能します。

長押ししながらポインターを画面の上半分に移させると拡大し、ポインターを画面下半分にずらすと縮小する仕組みです。

キーボードを使って画面移動してみよう

「基本設定」の一般(2)で設定を行うと、キーボードのみで画面移動ができるようになります。

タブを開くと、画面中程に「矢印キーで画面移動、PageUp・PageDownで画面拡大・縮小、Homeで全画面表示にする」という項目があります。

ここにチェックを入れておきましょう。

キーボードの矢印キーやPageUp・PageDownボタン、およびHomeボタンを使って画面移動ができるため、初心者にもわかりやすい方法です。

また、キーボードのShiftキーを押しながらマウスをドラッグすることでも画面が移動します。

キーボードを使う画面移動の方法は初心者にとっては便利でしょうが、上級者になるほどマウスでのみの操作に慣れてきます。

マウスのみで操作できれば、図面から目を離す必要がなくなり、効率アップに役立ちます。

JWCADの画面移動には設定が不可欠！

JWCADで画面移動をするためには、事前に「基本設定」でさまざまな指定をする必要があります。

それらの指定を適切に行うには、当然ながら知識が必要です。

ところが、初心者には十分な知識があるケースは「まれ」でしょう。

ネット上で、さまざまな入門サイトや使い方動画などを探することも可能です。

しかし、体系的な知識を習得して業務に活かすには、多くの時間や手間がかかります。

わからないところが出てきても、的確な回答がすぐに得られるとは限りません。

業務でCADソフトを導入し、なおかつ習得して業務に活かすのは容易ではないのです。

一方、プラスバイプラスのplusCAD水道やplusCAD電気 α には、手厚いサポートが付いてきます。

全国各地に支店を展開しているうえに、オンラインによるサポートも提供しているため、操作につまずいてもタイムリーな解決が期待できます。

ひとりで調べたり悩んだりする必要はありません。

手書きからCADへの移行を考えているなら、サポートの手厚いCADを選ぶことが重要でしょう。



せっかくJWCADを 利用するなら レイヤー設定を使いこなそう

手書きの図面から脱却したい事業者にとって、フリーソフトであるJWCADはとて頼りになる存在です。パソコン入力で図面を描くことで、手書きの煩雑さから解放される作業がたくさんあります。レイヤー設定も作業効率の改善に大きく貢献します。そこで、この記事ではJWCADを使う予定の人に向けて、レイヤー設定の概要や使い方を紹介します。

レイヤー設定の概要とメリット

レイヤー設定はパソコンならではの機能であり、手書きの作業時間を軽減してくれる優れたものです。レイヤーとは英語で「階層」という意味を持つ言葉で、JWCADで使うときは「透明フィルムでできた図面」をイメージするとわかりやすいでしょう。たとえば、1枚の図面を手書きで仕上げるときは寸法や建具の位置、配管の通し方まで、すべて余すことなく記入しなければいけません。しかし、この方法では作業終了後に依頼人の諸事情によって変更を余儀なくされると、図面全体を修正する必要があります。大がかりな修正になればなるほど、作業時間は長くなってしまいます。

そこでJWCADのレイヤー設定を使えば、修正する部分の図面だけを直せば良いのです。配管だけ変更したいときは、配管のレイヤーを抜いて修正することができます。また、任意のレイヤーだけ表示させることができる点も特徴です。たとえば、建具や寸法などの基本図面に給排水設備の図面を1枚表示させるだけで、給排水図になります。一方で、同じ基本図面に電気設備の図面を表示させれば、電気設備図面にできるのです。他にも、レイヤー設定はパソコン上に保存しておけるので、一度描いた図面を違う現場で活かせます。レイヤー設定を使いこなせば、作業時間の短縮に大きな効果が期待できるでしょう。

レイヤーダイアログとは？

レイヤー設定はレイヤーダイアログから行うことができます。レイヤーダイアログの表示方法は、「メニューバー」や「ステータスバー」にある「レイヤーコマンド」を実行することです。するとレイヤーダイアログが表示されますが、初めて使用するときはどのボタンが何を意味しているかよくわからない人もいるでしょう。まずはレイヤーダイアログのボタンの意味を知っておくことが重要です。

まず、ダイアログ上部にある「0～9、A～F」の英数字が記載されているタブは、「レイヤーグループタブ」と呼ばれます。JWCADのレイヤーは0～Fまでの16個のレイヤーで1グループであり、そのグループ内にさらに0～Fの16個があります。つまり、レイヤー数は総計で256個保存可能です。

「左クリックでグループの切り替え」「右クリックすると切り替えと共に書き込みレイヤーグループの状態にする」ことができます。

レイヤーグループタブのすぐ下に表示されているのは、選択しているグループの状態アイコンと縮尺です。

選択しているレイヤーの縮尺を変更したいときは、「S=1/1」などと記載されているボタンをクリックすると画面が切り替わります。

次に画面中央部分にある「レイヤー状態」というのは、それぞれのレイヤーの状態をアイコンで示している場所です。

レイヤー状態には「編集可能レイヤー（作図あり）」「非表示レイヤー（作図あり）」「表示のみレイヤー（作図あり）」など、全部で6パターンあります。

最初のうちはどのアイコンが何を意味しているかよくわからなくても、徐々に慣れてきて最終的には一目で状態判断できるようになるはずです。

ダイアログ下部にある「全レイヤー編集ボタン」や「全レイヤー非表示ボタン」はその名の通り、一括ですべてのレイヤーを編集可能にしたり、非表示にしたりできます。

まずはレイヤー設定をしてみよう

レイヤー設定を使いこなすには、基本的に描いた図面を小分けにして保存しておくことが重要です。

たとえば、図面の基本となる中心線をレイヤー0に保存し、レイヤー1に柱を描いた図面を保存します。

次にレイヤー2には壁を描き、同じような要領でレイヤー3には開閉口を描いていきます。

後は同じ作業の繰り返しで、家具や畳などを描くたびにレイヤーに保存していけば良いだけです。

また、レイヤーには数字や文字の保存もできます。

寸法や注意点を記入しておけば、より見やすい図面が描けるでしょう。

注意点などは表示非表示をすぐに切り替えられるレイヤーで設定しておくとう便利です。

なお、作図をしながらレイヤー設定するときは、レイヤーバーを使用すると簡単です。

レイヤーバーは表示メニューにある「ツールバーコマンド」のなかにある「レイヤーバー」を選択すれば表示されます。

一般的に1枚の図面を描くときに16個以上のレイヤーを使うケースは少ないでしょう。

そのようなときはレイヤーバーを表示させながら、順次レイヤーを切り替えていくと楽に作業できます。

また、レイヤーを英数字で保存しておく、どのレイヤーに何を保存したのかわからなくなることがあります。

そうした不都合をなくすために、レイヤー設定ダイアログから名前を付けておくとう便利です。

レイヤー名はダイアログのレイヤー状態が表示されている場所から変更できるので覚えておきましょう。

プロテクトレイヤーでうっかりミスを防止！

せっかく作ったレイヤーを間違えて消してしまうと、作業工程に大きな支障を及ぼします。

そのような事態を防ぐための機能が「プロテクトレイヤー」です。

プロテクトレイヤーに指定すると保護されるため、うっかりミスで消してしまうリスクを減らせます。

プロテクトレイヤーに指定する方法は、「Ctrlキーを押しながら対象となるレイヤーを左クリック」です。

ただし、対象となるレイヤーがアクティブな状態だと指定できないので注意しましょう。

無事にプロテクトレイヤーに指定できたかどうかは、レイヤーバーを見ればわかります。

プロテクトレイヤーに指定されたレイヤーには英数字部分に斜め線が表示されているはずです。

もしもレイヤーバーの英数字に表示されないときは、もう一度同じ操作を繰り返してみましょう。

なお、プロテクトレイヤーでは表示、非表示の変更を不可にする機能もあります。
表示状態を固定するためには、「CtrlキーとShiftキーを押しながら、対象レイヤーを左クリック」です。
すると、指定してレイヤーの英数字部分がバツ印に変わります。

レイヤー間での移動や複写も可能

レイヤーのデータを移動や複写を上手に使うことで、さらに作業効率がアップします。
ただし、上手に使いこなすためにはいくつかのポイントを知っておくことが重要です。
たとえば、Aというレイヤーに書いた図形を複写で範囲指定した場合、ほかのレイヤーに書いた図まで対象になるケースがあります。
この場合は、コントロールバーの「属性選択」のなかにある「書込【レイヤー】のみ選択」を選びましょう。
すると、その時点で書き込み可能となっているレイヤーのデータだけが複写され、不要な部分まで選択されることはありません。

また、Bというレイヤーに書いた図形を移動先のCというレイヤーに複写しても、Bにそのまま書き込まれてしまう状態に悩む人も多いです。
この場合は、コントロールバーの「作図属性」から「書込み【レイヤー】に作図」を選んで、複写したいレイヤーに切り替えてから複写すればコピーできるはずです。
レイヤーにはさまざまな便利な使い方があるので、慣れてきたら研究してみましょう。

レイヤーを使いこなせば作業効率アップ！

レイヤーを使いこなすことで作業の手間が大幅に減ります。
レイヤーはJWCADを使うにあたって、非常に魅力的な機能のひとつだといえるでしょう。
ただし、JWCADはフリーソフトであるがゆえに満足なサポート体制を得られず、操作方法に苦労している人もいないでしょうか。
そのような人におすすめなのが、サポート体制が充実しているプラスバイプラスのCADソフトです。
操作に自信がない人は利用を検討してみましょう。



自動保存を使うと さらに便利に! JWCADを使いこなす方法

パソコンで図面を作成していると、急にパソコンが動かなくなってしまうというトラブルに見舞われることがよくあります。せっかく作成中の図面はこまめに保存するのがいいとは知っていても、つい保存を忘れてしまうケースは多いものです。トラブルによって、JWCADで半日もかけて作った図面がすべて消えてしまった経験のある人もいるかもしれません。そういった問題が起こらないよう、自動保存の設定を必ずしておきましょう。JWCADには自動保存機能がついていますので、もしものときにも安心です。そこで今回は、JWCADの自動保存について詳しく説明します。

JWCADの自動保存って？

自動保存というのは、JWCADが持つ自動保存機能によって定期的かつ自動的にデータがファイルに保存されることを指します。図面の作成作業中に起こる停電やブレーカーダウンによるパソコン本体の電源シャットダウンや、Windowsやアプリケーションのフリーズなどといった事態に備え、なるべく直前のデータに戻って作業が再開できるための機能です。通常であれば、導入の段階で有効に設定されていますので、特に設定していない状態でも自動保存機能が働いているケースがほとんどです。ただ、何らかの事情で自動保存機能が働いていない場合には任意で設定しておくことで安心です。

JWCADの自動保存を設定しよう

JWCADの自動保存を設定する方法は、まずメニューバーにある「設定」をクリックして「基本設定」を選択します。この画面から、JWCADのさまざまな設定が可能です。基本設定の画面の左端にある「一般(1)」のタブを選択すると「オートセーブ時間」という項目が見つかります。その右側の数字を任意に設定することで、自動保存の設定が可能です。この数字が30になっていると30分ごとにデータが自動的に保存されます。練習用の図面や趣味などで使う図面の作成であれば、30分間隔の自動保存でも十分でしょう。ただ、仕事で使用する図面の場合には自動保存の間隔を短く設定しておくことで安心です。たとえば1〜3分間隔で自動保存されるように設定しておくことで、作業のほとんどが自動的に保存されるようになります。そのため、トラブルが発生した場合でも復旧後に作成したデータをほとんど失うことなく作業が続けられます。自動保存されたファイルが保存されるのは、原則としてその図面データが保存されている場所です。ハードディスクのフォルダから読み込んだ図面であれば、そのフォルダがある場所に「【自動保存】ファイル名.jw\$」として保存されています。

ただし、新規で未保存の図面は、JWCADのインストール先フォルダであるC:\jww内に「【自動保存】.jw\$」として保存されますので探してみましょう。

自動保存されたファイルの開き方

JWCADで作業をしているときにパソコンが動かなくなってしまった場合でも、パソコンを再起動したあと、自動保存されたファイルを開くことで作図途中の図面を取り出すことが可能です。

ただ、自動保存されたファイルを開くためには、「ファイル名変更」コマンドから、自動保存されたファイルの拡張子である「jw\$」を選び、JWCAD図面ファイルの拡張子である「jww」に変更する必要があります。

自動保存されたファイルをJWCADの図面ファイルに変更する方法は、まずメニューバーの「ファイル」をクリックします。

プルダウンメニューから「ファイル操作」を選び、「ファイル名変更」をクリックします。

そうすると「ファイル選択」ウィンドウが表示されますので、フォルダツリーで変更したい自動保存ファイルが収められているフォルダを選んでクリックします。

「ファイルの種類」ボックスからリストを表示させ、「jw\$」を選択します。

その後、フォルダ内にある自動保存リストが表示されますので、変更したい自動保存ファイルを選んでダブルクリックしましょう。

すると、自動保存ファイルの参照ウィンドウが表示されますので、開きたいファイルであることを確認します。

確認後は、閉じるボタンをクリックしてウィンドウを閉じておきましょう。

今度は、変更したい自動保存ファイルをクリックして選択してから、「選択確定」ボタンを押します。

そこで表示された「ファイル名変更」ボックスにある名前の最後尾をクリックし、入力ポインタを移動させます。

後ろの拡張子3文字を「jww」に変更して「OK」をクリックすると完了です。

最後に「ファイル選択」ウィンドウの右上にある閉じるボタンを押して画面を閉じておきます。

こうしておくで、自動保存されたファイルは通常のファイルと同じように「開く」コマンドから開けられるようになります。

ファイル読み込み項目にはご用心！

JWCADには非常にたくさんの拡張子がありますので、ファイルの種類を正しく理解していない場合には混乱してしまうおそれがあります。

たとえば図面ファイルには、「ファイル読み込み項目」という3つの項目が設定されています。

その1つ目は「線色要素・線種パターン・線半径」、2つ目は「描画・印刷状態」、3つ目は「文字基準点ずれ」です。

この3項目はオプションの設定によって保存ができます。さらに、設定ファイルでも記述が可能です。

ほかにも、図面ファイルを保存する場合には、図面のデータとともに現在の設定値が拡張子「jww」の図面ファイルに保存されています。

もし、基本設定のウィンドウや設定ファイルでそれぞれを「読み込む」ように設定している場合には、図面といっしょに保存されている設定情報も有効となります。

言い換えれば、前回図面ファイルを保存したときの設定がそのまま有効とされます。

一方で、「読み込まない」ように設定している場合には、JWCADのデフォルトの環境設定ファイルである「Jw_win.jwf」内の設定やオプションが有効になりますので注意しましょう。

CADソフトはサポートがあれば安心！

JWCADには自動保存機能がついていますので、パソコンが動かなくなったときでも、作成途中の図面を復活させることが可能です。

ただ、図面をもう一度呼び出すには拡張子を変更するといった手間もかかります。

パソコン初心者には少々難しい作業ですので、どれだけデータが自動保存されていても問題が解決しないこともあるでしょう。

しかも、JWCADはフリーソフトであるためサポートなどは行っていません。

そのため、機能面でわからないことがある場合には、作業が行き詰ってしまうこともあります。

周囲にJWCADに詳しい人がいるのであれば教えてもらうことも可能ですが、そういった人が近くにいない場合は大変です。

もし、パソコンを使い慣れてはいないけれどCADソフトの導入に興味があるという場合は、サポート面で充実しているCADソフトを選ぶと安心です。

なかでも、プラスバイプラスのCADソフトである「plusCAD」であれば、導入前から導入後までさまざまなサポートが受けられます。

まず導入前の問い合わせに対しては、アドバイザーの訪問によるデモンストレーションがあります。

どのようなソフトなのか説明をしっかりと受けることができます。

さらに、仕事内容に応じたソフトの構成案が提示されます。提案内容に納得できたら本契約です。

会社のパソコンにCADソフトをインストールしてもらえますし、インストラクターから操作の説明を直接受けられます。

最大3回の訪問サポートがありますので、使っていくうちに出てくる疑問点や不明点なども時間を置かずに解決できます。

さらに、作業中にわからないことがあれば、電話サポートや通信サポートを利用して即座に問題を解消することも可能です。

プラスバイプラスのplusCADなら、手厚いサポートが充実していることからすぐに使いこなせるようになるでしょう。

導入後には業務効率が格段にアップしますので、新しい仕事の受注にもつながる可能性があります。

プラスバイプラスのCADソフトを導入して、仕事の生産性を向上させてみてはいかがでしょうか。



JWCADの基本！ 複写・移動・消去を 使いこなす

JWCADは慣れてしまえばいろいろ複雑な図面を書けますし、便利な機能も付いています。しかし、初めて使うときには、何かとむずかしいと感じることは多いかもしれません。特に、パソコンでの作業が苦手な人にとって、わからない部分は多いでしょう。覚えていくコツは、いきなり全部の機能を使おうとしないことです。そこで、JWCADを使い始めたばかりの人、またはなかなか覚えられない人に向けて、基本的な機能について解説していきます。

JWCADの複写機能を使いこなす

複写の基本操作は、まずメニューバーにある「編集」から行います。メニューバーにある「編集」から「図形複写」「作図」と選択し、ツールバーの「複写」をクリックします。複写したい図形の範囲を選択し、コマンドを実行しましょう。クロックメニューを使うときは、左ドラッグAM7時を、右ドラッグもAM7時を選択します。クロックメニューとは、左ボタンドラッグや右ボタンドラッグをすることによって出てくるメニューのことです。時計のように見えるメニューなので、クロックメニューと呼ばれています。ドラッグする方向に応じてコマンドの切り替えができる便利な機能です。コマンドを決定させるときは、マウスボタンを放すだけでできます。どちらかといえば中級者以上の人に向いている機能ですが、覚えておくといいでしょう。

連続複写を行うには「複写」コマンドと「連続」ボタンを使います。はじめに「複写」コマンドで実行した編集は「連続」ボタンを押すことで繰り返すことができます。同じ編集を行う必要がなく、便利な機能です。また「連続」ボタンをマウスで左クリックするとその度に複写され、右クリックをした場合はボタンを放すまで複写が繰り返されます。

ほかの図面を複写するには、JWCADの作業画面を2つ開いておけば可能です。まず、複写したい図面のメニューから「編集」、次に「範囲選択」と選択します。次に、複写したい範囲を選択しましょう。そして、開いてあるもう1面のJWCADに移動し、メニューから「編集」そして「貼り付け」と選択します。画面上で複写する場所を指示すれば複写完了です。

移動は、JWCADを使う上で早めに覚えておくと、いろいろと応用できます。JWCADで図形を移動させるには、メニューバーの「編集」から「図形移動」を選択しましょう。ほかにも「作図」から「移動」を選択する方法もあります。クロックメニューを活用する場合は、左ドラッグでAM7時、右ドラッグでもAM7時を選択すればできます。ただし、クロックメニューでAM7時を選択すると「複写」が選択されるので、コントロールバーにある「複写」のチェックを外しておきましょう。こうすることで解決できます。「移動」コマンドを選択すると、コントロールバーに「前範囲」「全選択」そして「選択解除」が表示されます。移動をするには、図形の範囲選択が必要です。「前範囲」は1つ前の選択範囲で実行でき「全選択」は選択中の図形全部を指定します。範囲のキャンセルをする場合は「選択解除」を選択しましょう。

JWCADの移動コマンドでできる意外な機能

「移動」コマンドを使うと、図形を回転させるときに便利です。初めての人は理由がわからないかもしれません。実は、JWCADには「回転」コマンドが用意されていないために、移動コマンドを代用します。

「移動」コマンドを使って図形を回転させるには、基点を中心に行います。基点を利用することで、図形を回転させることもできますし、反転も可能です。まず「移動」コマンドを選択し、次にコントロールバーの「角」をクリックしましょう。さらに、図形を回転させたい位置の端点を指示しておきます。次に、基点になる中心点の位置を指定すれば、回転させる端点の向きを決められます。

JWCADは、慣れないとむずかしい作業が多い印象ですが、何度かやってみて覚えていくしかありません。そのためには、一気にたくさんのことを覚えようとせず、少しずつマスターしていくと混乱せずに済みます。また、いろいろなやり方が公開されているので、自分に合った方法を模索するのも解決策です。

JWCADの移動機能の基本操作

移動は、JWCADを使う上で早めに覚えておくと、いろいろと応用できます。JWCADで図形を移動させるには、メニューバーの「編集」から「図形移動」を選択しましょう。ほかにも「作図」から「移動」を選択する方法もあります。クロックメニューを活用する場合は、左ドラッグでAM7時、右ドラッグでもAM7時を選択すればできます。ただし、クロックメニューでAM7時を選択すると「複写」が選択されるので、コントロールバーにある「複写」のチェックを外しておきましょう。こうすることで解決できます。「移動」コマンドを選択すると、コントロールバーに「前範囲」「全選択」そして「選択解除」が表示されます。移動するには、図形の範囲選択が必要です。「前範囲」は1つ前の選択範囲で実行でき「全選択」は選択中の図形全部を指定します。範囲のキャンセルをする場合は「選択解除」を選択しましょう。

JWCADの移動コマンドでできる意外な機能

「移動」コマンドを使うと、図形を回転させるときに便利です。初めての人は理由がわからないかもしれません。実は、JWCADには「回転」コマンドが用意されていないために、移動コマンドを代用します。

「移動」コマンドを使って図形を回転させるには、基点を中心に行います。基点を利用することで、図形を回転させることもできますし、反転も可能です。まず「移動」コマンドを選択し、次にコントロールバーの「角」をクリックしましょう。さらに、図形を回転させたい位置の端点を指示しておきます。次に、基点になる中心点の位置を指定すれば、回転させる端点の向きを決められます。

JWCADは、慣れないとむずかしい作業が多い印象ですが、何度かやってみて覚えていくしかありません。そのためには、一気にたくさんのことを覚えようとせず、少しずつマスターしていくと混乱せずに済みます。また、いろいろなやり方が公開されているので、自分に合った方法を模索するのも解決策です。

JWCADの消去の基本的な使い方

JWCADで図形を消去するには、メニューバーの「編集」から「消去」を選択する方法があります。ほかには、ツールバーの「編集」から「消去」を選択してもできます。クロックメニューを使うなら、左ドラッグでAM10時、右ドラッグも同じくAM10時の方にマウスを移動すればできます。消去したい図形の範囲を選択して実行しましょう。「消去コマンド」を選択すると「一括処理」と「選択順切替」、そして「範囲選択消去」と「連続範囲選択消去」がコントロールバーに表示されます。テンキーを使用している場合、コントロールバーの左から順に1~4のキーでの処理も可能です。また、消去したい図形を選択したあと「delete」キーを押しても消去が実行できます。これはショートカットとして使えるので、覚えておくといいでしょう。ショートカットキーは、急いでいるときにも便利です。

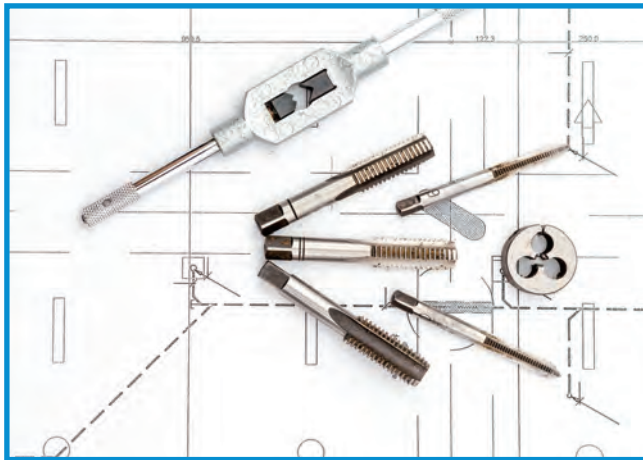
操作が簡単でスピーディーに書ける方法

仕事に必要な作業を覚えていくことや、知識を吸収するのは重要なことです。特に、水道工事や電気工事のような、ライフラインに関わる工事の図面には正確性が要求されます。手書きでも問題はありませんが、誰が見てもわかるようなものであることが前提です。見る人によって解釈が変わってしまう図面や、誤解を招きやすいものは工事ミスの原因にもなります。せっかく工事した水道や電気が使用できないのも困りますし、危険を伴うのは避けたいものです。

JWCADは、フリーソフトでありながら複雑な図面の作成にも対応しています。建築関係者の中で広く使われているCADソフトなので、工事関係の業務に携わっていれば、周囲に使っている人は多いでしょう。手書きに慣れてしまっている人や、パソコンが苦手な人にとっては、むずかしいと感じる操作は多いかもしれません。また、導入したばかりの人は、どこから覚えたらいいかわからない人もいます。そんな場合には、まず基本的な操作を覚えていくことです。いきなりたくさん機能を覚えようとして、ハードルを上げると逆効果になります。1日に1つの機能を覚えていくか、1つの機能を完全にマスターしたら次を覚えるというペースが適切です。

しかし、なかなか覚えられない、どうしても作図に時間がかかってしまうなら、操作が簡単なCADの導入を考えるのもいいかもしれません。1つの作業をするために、いちいちマニュアルを引き出しているのは、時間がかかってしまいます。JWCADの場合はマニュアル自体が存在していないため、ネットを中心に情報を引き出すのも手間です。また、そこまで時間をかけて作図したあとに、今度は見積もりがあります。工事以外の部分に時間を取られるのが悩みの人は多いのではないのでしょうか。

プラスバイプラスの水道CAD・電気CADは、マウス操作が基本です。パソコンが苦手な人が覚えにくいキーボード操作や、図形を作る作業もほぼありません。工事に必要な材料は、さまざまなメーカーのものが初めからデータとして入っています。それを図面に配置していただくという手軽さです。さらに、図面が完成すると同時に見積もりも完了するというスピーディーさで、かなりの時間を短縮できます。むずかしい操作は苦手な人や、できるだけ簡単に時間を短縮させたいなら、プラスバイプラスの水道CADや電気CADを使ってみてはいかがでしょうか。



JWCADの クロックメニューとは？ 操作方法と 使えるコマンドを解説

JWCADでもその他のソフトでも、使用したいコマンドを呼び出す作業は想像以上に時間をロスするものです。1回あたりの作業の時間は短くても、たびたびコマンドを切り替えて図面作成を進める場合、ロスする時間の合計はかなりの長さになります。このようなロスをなくすために役立つ機能が「クロックメニュー」です。クロックメニューをマスターすることで、JWCADでの図面作成がより快適で効率的なものになるでしょう。ここでは、クロックメニューとは何か、どのように使えばいいのかなどの内容を解説します。

クロックメニューとは？基本操作の解説

クロックメニューは簡単にいうと「メニューバーが時計の形になったもの」です。時計の1～12時の全12方向に、それぞれコマンドが割り振られています。マウスで時計の針を回転させることで、希望のコマンドを選べる仕組みです。クロックメニューは、マウスのドラッグによって呼び出します。ドラッグとは、マウスのボタンを押したままマウスを動かす動作です。押すボタンが左なら左ドラッグ、右なら右ドラッグと呼びます。

クロックメニューは左右のドラッグで表示されるメニューが異なるため、左右の使い分けだけで24種類のメニューを呼び出せるのが特徴です。たとえば、初期設定では4時の方向に左ドラッグをすると「範囲選択」のコマンド、右ドラッグをすると「戻る」のコマンドになります。

クロックメニューは、左右だけでなく「AM/PM」の切り替えも可能です。初期設定はAMで24種類のコマンドを使えますが、PMに切り替えることで、さらに24種類のコマンドを追加で選択できます。AMは明るい色の時計、PMは暗い色の時計で、現実世界の午前と午後のイメージに近いものです。

AMとPMを切り替える方法は2つあります。1つ目は「その時点で押しているマウスのボタンと逆のボタンを押すこと」、2つ目は「マウスをクロックメニューの上に持っていくこと」です。1つ目については、クロックメニューを表示している時点で左右どちらかのボタンを押せばなしにしていますが、その反対側のボタンを押します。たとえば、左ドラッグをしている場合は、左ボタンを押したまま右ボタンも押してください。

2つ目については、クロックメニューが表示された時点では、マウスは時計の外にあります。これを時計の上に移動させることで、AMとPMの切り替えが可能です。「時計の真ん中にマウスを持っていく」とイメージするとわかりやすいでしょう。真ん中に持っていった時点で直前のコマンド選択がキャンセルされ、AMとPMも切り替わります。その状態からまた時計の外にマウスをドラッグすれば、新しいコマンドを選ぶことが可能です。

クロックメニューで使えるコマンドの一覧

クロックメニューで使えるコマンドの中で主なものをあげると、「戻る」は右AMの4時、「進む」は右AMの5時となっています。範囲選択左AMの4時、複写は左AMの7時です。図を描くときによく使われるコマンドは、左に集まっています。線は左AMの1時、

円弧は左AMの2時、四角形を描く「矩形」は左PMの1時、その他の図形を描く「図形」は左PMの2時です。図形や写真などを動かすときに使う「移動」は左PMの7時、拡大と縮小で使う「伸縮」は左AMの8時となっています。

主要なコマンドは、ほとんど右ではなく左のAMかPMに集中しています。一般的にマウスドラッグは左ボタンで行うことが多いためです。コピー&ペーストの作業も多くの人が左ドラッグでしているはずなので、左ドラッグの方が楽に操作できるのは実感しやすいでしょう。

クロックメニューのコマンドをカスタマイズする方法

クロックメニューのコマンドは、自分で自由に設定可能です。メニューバーの「設定」から「基本設定」をクリックし、出てきたダイアログの「AUTO」のタブを選べば、クロックメニューのカスタマイズ画面になります。左AM・右AM・左PM・右PMの4つの時計が並んでおり、数値を入力するボックスがそれぞれに12個ずつある画面です。このボックスに、割り当てたいコマンドの数値を入れます。コマンドに割り振られた数値は、4つの時計の下に「コマンド一覧」としてすべて書かれているため、数値を知らなくても問題ありません。たとえば、「貼付」を当てはめたい場合は34、「分割」を当てはめたい場合は26という具合に数字を入力します。

図面作成を手軽にしたいならクロックメニューよりも有料CADソフトが便利

JWCADでクロックメニューを活用するのは、図面作成を手軽にするためでしょう。クロックメニューは非常に便利な機能ですが、たとえば「水道工事専用の記号」などをワンタッチで呼び出すことはできません。一般向けの無料ソフトである以上、これは当然のことといえます。

一方、有料ソフトで水道工事の図面作成に特化したものなら、上記のような機能も利用可能です。たとえば、プラスバイプラスの「plusCAD水道」なら、铸铁管・フランジ・HIVP変換継手など、水道工事の図面作成に必要なシンボルメニューを、スタンプのようにワンタッチで描写できます。このように特定ジャンルに特化したCADソフトであれば、JWCADのクロックメニューよりもさらに効率的に作業を進められるでしょう。図面作成にかかる時間を短縮したいと考えている工事業者の方は、このようなジャンル特化型のCADソフトの導入を検討してみてもいいかもしれません。

ご利用の際の注意事項

本資料は著作権法で保護されている著作物です。
利用に関しまして以下の点にご注意ください。

- 本資料の著作権はスイポ運営委員会に帰属します。
- 著作権者の許可を得ずに、本書の一部または全部を印刷媒体、画像媒体、インターネット媒体、講演会等に、著作権者の許可なく複製、転載、加工、転売することを禁じます。
- 本資料で知り得た情報について第三者に開示することを禁じます。
- 本資料の内容を実行して、予期せぬ損害が発生した場合、著作者がその結果に対して責任を負うものではありません。
- 上記に違反した場合は法的措置を執る場合がありますのでご注意ください。



水道工事業界のお役立ち情報をお届け！

水道総合ポータルサイト【スイポ】

新企画、随時更新中！今すぐチェック！



**今すぐ
アクセス！**

QRコードを読み取って
アクセスして下さい！



【スイポ】をご覧の皆さまから川柳を募集しています。

水道工事業界や現場にまつわる共感ネタを、五・七・五の川柳にしてみませんか？

貴方様からのご応募お待ちしております。



**今すぐ
アクセス！**

QRコードを読み取って
アクセスして下さい！



水道工事業界の人たちって、ぶっちゃけ儲かってる？儲かっていない？お休みは週1日？週2日？使っているSNSは？などなど。

同業の方の见たい！聞きたい！知りたい！気になる情報を投票結果から今すぐチェック！